

平成23年度実施協働事業 報告会における協働事業審査会の意見

この協働事業審査会の意見は、平成24年5月12日（土）に開催された、協働事業報告会における協働事業審査会委員からの意見やアドバイスをまとめたものです。

事業名	ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業 (事業開始年度：平成21年度～)		
団体名	明日の金田を創る会	担当課	農水産課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・金田地域の景観づくりに取り組む団体の思いが伝わってきた。
- ・行政と団体の役割分担がだんだん明確になってきたことがわかり、23年度は活動を楽しむゆとりも持てたのではないかと。楽しく活動する姿を見てもらうことは他団体へのいい刺激になると思う。
- ・後世に残すべき素晴らしい景観を主体的に見守っていただいた点は他分野にも非常に参考になる。
- ・委託事業との差別化、協働事業としてのメリットがはっきりしたと思う。
- ・自主事業に期待しています。
- ・地域の様々な人が関わり、地域のコミュニティづくりにも貢献しているようです。今後も他地域のモデルになるよう、良い形で活動を継続してほしいと思います。
- ・ユースボランティア受け入れなども、積極的に協力していただいております。今後も継続してください。
- ・花アグリ周辺に花が植えられてどんどんきれいになっているのが分かります。そんな成果をみんな実感できることが活動を勢い付けているように思います。
- ・専門性を有するメンバーが積極的に活動に関わることで事業のレベルを引き上げていると思う。
- ・広報活動により会員を徐々にではあるが増やしていることは素晴らしい。
- ・費用対効果について、団体は「3」だが、私は低いとは思わない。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・人材の巻き込みと企業との協働を視野に入れてはどうか。
- ・さらに進めて里親（※アダプト）の観点等も踏まえ展開していただきたい。
- ※公共スペースを自治体と住民が役割分担について協定を結び、継続的に美化活動を進める仕組み
- ・NPO 法人化を検討したらいいのではないかと。継続的、発展的という目標が担保できる。自主財源（寄付金収入）を確保し、いずれは指定NPO法人を目指してほしい。
- ・作業に参加した人に事故があった場合の対応など、リスク管理について話が聞いてみたい。
- ・継続して活動を推進していくための方法を検討してほしい。
- ・古川沿いの桜並木の植栽エリアは広いし、年間を通じて雑草が多いところなので、もっと多くの協力者が必要と感じます。
- ・「地域のふれあいの場」としての意義は非常に大きいと思います。この活動を今後も継続し、その輪を広げていっていただきたい。
- ・24年度に実施するざる菊の有償提供以外にも自主財源の確保について検討が必要かと思えます。
- ・今後、緑化事業など別テーマの活動として行う場合にも、農水産課は関連する課との橋渡しや協力をしっかりとっていただきたい。
- ・若年層の取り込み。長い目で見たら今のうちから近所の小学校や中学校、高校と何かイベントを共同で実施してみるのも良いと思います。

事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 (事業開始年度：平成22年度～)		
団体名	花育ボランティア「花伝道師」	担当課	農水産課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・22年度の課題を克服して充実した活動が行われたことがわかる。特に行政との関係がより深く構築されたと感じた。
- ・子ども達を中心に生命と自然への理解を深める活動は視点として良いと思います。このような活動をきめ細やかに実行できるのは、まさに市民の力なくしては成し得ないものと思います。
- ・評価シートでは団体・行政ともに協働の視点、事業の内容が高得点だったので協働事業として大成功だったのではないかと思う。
- ・事業のメニューが5つと多く、上手くいった部分、いかなかった部分があったようですが、前年度の課題を検討しながら事業が進められたことは良かったと感じます。
- ・「地場産の花のPR」「平塚市が県内有数の花き産地であることのPR」という目的を設定したことにより事業に少し統一感が出てきた気がします。
- ・好意的な花材の提供や講師の引き受けなど生産者とのつながりが昨年よりも増えてきているのは大きな前進だと思います。
- ・市のマイクロバスを利用可能としたのは行政側の柔軟な対応だと思います。予算削減にも効果がありこの様な対応は良かったのではないのでしょうか。
- ・イベントへの参加者数の増加やイベント収入の増加、花育体験の希望数の増加はこの活動に対する認知や活動のレベルが上がっている結果の表れだと思います。
- ・多彩な活動ができ良かった。
- ・「でこっばち」（素焼き鉢のデコレーション体験）というネーミングが良い。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・ここで得られた成果を次に繋げるために団体として中長期的な目標を設定し、組織基盤を強化するとともに、手を組める他のセクターとの連携を模索することも必要と思われれます。
- ・花菜ガーデン等との事業コラボも検討してみてもどうか。
- ・地場産品としての花きの親しみを増すことによる産業の活性化にもつなげていただきたい。
- ・公益性がわかりにくい気がする。花育体験の講演は共催事業を検討するなど広く市民にPRしてほしい。
- ・自主財源を確保して継続してほしい。
- ・花育活動の継続に向けて団体内で知恵を出し合ってもらいたい。
- ・平成24年度からは提案型以外の形で協働していくようですが、行政側には団体の自主性を尊重することを念頭に置いていただき、また、団体側は会員相互で良く話し合っ、良好な関係を保持しながら協働事業を進めていただきたいと願っています。
- ・今回できた生産者との繋がりは非常に大きな意味があると思います。協働事業は終了とのことですが、せっかくできた生産者とのつながりを団体、行政ともに今後の活動に活かしていただきたい。
- ・こうした活動は継続して実施し、活動の輪が広がることでいずれ大輪の花が咲くのだと思います。継続して活動を盛り上げていただきたいです。
- ・花き生産者以外の専門家（研究者や業者 etc）にも参加を働きかけたらいかがでしょうか。

事業名	こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」 (事業開始年度：平成22年度～)		
団体名	浜岳中学校区 子ども読書活動推進協議会	担当課	くらし安全課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・行政と団体の目的が一致しているので事業が“ぶれず”に進んでいる。また、無理のない目標設定と双方が楽しみながら活動できたことは評価できる。
- ・命の尊さを学ぶことの大切さを小さな子どもの頃から伝えるという大事なテーマだと思います。
- ・「自殺対策」という重たいテーマを軟らかなものとしてとらえた手法がとても良かったと思います。まさしく原点に立ち返った思考の成し得る技だと思いました。
- ・読み聞かせという楽しく学べる方法での啓発は、行政では考えられなかったかもしれません。
- ・中学生、高校生など参加した人が、今後事業提案者として関わるよう広がってほしいと思う。
- ・評価シート、協働の視点、事業内容ともに団体・行政で好評価となっているが、何故他の中学校区の出現がなかったかの原因を追究して広めてもらいたい。
- ・くじけそうになったとき、この事業のことを思い出して元気になってもらえたら最高だと思う。
- ・去年に比べても、なでしこ小や高校などが増え、日数、参加人数も増えている。
- ・事業を行った団体も、市の担当課もほぼ「5」という評価になっています。こうした評価は、お互いに目的を共有し、良好な信頼関係がなければ出てこない結果だと思います。
- ・昨年に続く今年の「いのちの尊さをつたえる本 Vol.3」も非常に良く出来ていると思います。図書の見逃しも秀逸です。
- ・ポスター制作、展示などの新しい活動についても、協働事業として実施した点は非常に良かったと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・学校司書との連携も検討してほしいです。(すでにされているかもしれないが)
- ・落語会の効果と役割が明確ではないように感じ、費用の大半が使われていることから再考した方がよいと思います。
- ・自己評価が双方ともに高いのだが、自己満足に終わることなく活動を続けてほしい。
- ・特定の地域だけでなく、将来的には全市域への広がりを期待していますが、どんなにそうした呼びかけをしても、結局はパートナーとなる団体の理解が得られなければ、それも叶わないと思います。
- ・今後も地域は限定されても、本や絵本を通じ、命の大切さや尊さについて長く伝える活動を続けてほしいと思います。
- ・読み聞かせ活動は非常に意義が大きいので、協働事業としての取り組みが終わっても継続して取り組んでいただきたい。行政側も今後もしっかりこの活動をサポートしてほしい。
- ・「いのちの尊さをつたえる本 Vol.3」は他の地区にも提供されたとのことですが、各地区ではどのように受け止められているのでしょうか？これが媒体となって活動自体の認知を広げることができないのか。今年も他のエリアの小中学校、保育園などに活動が広がらなかったのは残念です。チャンスがありそうな気がします。
- ・全市的な事業展開へのステップづくりを行ってほしい。

事業名	男女共同参画推進紙芝居実演及び啓発事業 (事業開始年度：平成21年度～)		
団体名	平塚てづくり紙芝居の会	担当課	人権・男女共同参画課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・協働事業にチャレンジしたことで団体としてのあり方や方向性が見え、足元が固まってきたように思う。
- ・少ない経費で非常に大きな効果を得られていると思います。
- ・講座の謝金収入など財源確保に努めていることが前向きでいいと思う。
- ・23年度は高校生にも実演し（NPOガイダンス）、保育士にも実演の仕方を講義するなどさらに充実した1年ではなかったか。
- ・高校生からの反応が大きかったというのに驚いた。デジタル世代には逆に新鮮なのかもしれないがそれだけにメッセージが強く伝わると思う。
- ・子どもたちへの男女共同参画啓発という難しい課題を事業として軌道にのせ、成果に結びつけたことは、大いに評価できると思います。
- ・事業効果のみならず、事業実施を通して行政と市民団体の双方に相応のメリットが得られている点は、本市が進める協働事業の在り方の見本と評してよいと思います。
- ・保育士への講義用に作成した冊子は、啓発資料としても活用できるよう工夫している点も評価します。
- ・大震災の影響で予定していた事業が出来ない状況でも、事業内容を柔軟に変更して保育士への実演方法の講義が実施できたのは良かったと思います。変更の内容も非常に適切だったと思います。
- ・保育士からのアンケートにおける評価が高く、今後有効活用が期待できます。
- ・市民団体にとっても今回の活動を通じて数多くの保育園と接点を持てたのは良かったのではないのでしょうか。
- ・昨年度指摘された点がクリアされており、3年間の努力が成果となって表れている。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・事業終了とのことだが、3年間の間に様々な組織との関係が構築されてきた、このメリットを最大限活かして文化芸術分野の発展に貢献していただけると期待します。
- ・行政だけでなく、子ども系のNPOなどと連携してみたらどうかと思う。
- ・この3年間の経験を活かしてさらに紙芝居やそれ以外の作品を作り、またこの間の反省や気づきを活かしてもらいたい。
- ・講義用に作成した冊子と合わせ、幅広い活用を図りながら、男女共同参画の推進に役立てていただくことを期待します。
- ・成果物の所有権や著作権などの点で議論が生じた事業でしたが、せっかく作った成果物なので、他の自治体における取り組み事例などを参考にして市民団体、行政双方にとって良い形で活用できるようにしていただきたい。

事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化 (事業開始年度：平成23年度～)		
団体名	ひらつか市民活動連絡協議会	担当課	協働推進課

(1) 良かった点 (さらに伸ばして欲しい点)

- ・市民提案の協働事業となっているのが素晴らしい。団体間のコーディネートという難しいことに市民団体関わってくれることは平塚市の市民活動の推進の大きな力となっていると思います。
- ・ファシリテーター団体の持っているノウハウと市のフォローで分野別部会を継続して行ってほしい。市民活動団体が連携、協力して活動に結び付けていったのは素晴らしい。
- ・1年目の事業としては、一定の成果は収められていると感じますが、肝心なのは2年目ですので、ある程度着地点を見据えながら、お互い十分な協議をして進めて行ってほしいと思います。
- ・大きなテーマに取り組んでいるが、団体が連携して5つの分野別部会が発足したことは大きい。行政が不安に思っている課題(メンバーの役割分担)を克服して進めて行って下さい。
- ・報告誌は非常に分かりやすく、よくできています。
- ・難しいテーマに取り組み、活動していることは理解できる。皆忙しい人ばかりであり、疲れすぎないように。楽しむ方法も考えてほしい。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・市民活動センターの主体的運営も視野に入れられるとどうだろう。
- ・行政との役割分担や目標達成が評価されているようだが、逆に妥協しないで良い事業に仕上げしてほしい。
- ・アンケート結果の分析や市民ニーズとしてセンターをどう利用していくかなど自主的に活動を継続し、地道に道筋をつけ、思いを持った方が大きくして行ってほしい。
- ・2年目は、5つのテーマで部会活動を展開していくこととなりますが、団体側の組織体制の充実(参加団体の増加)が鍵となってくると思われます。新たな団体を巻き込みながらも、中核を担うメンバーが息切れすることなく事業が継続できるよう、団体内のサポート体制を図りながら、団体・行政双方の役割分担を明確にして、無理のない計画で取り組んでほしいと思います。
- ・団体としての役割(中間支援コーディネーター)を十分発揮し、市民活動の活性化につなげると共に、団体としての組織基盤を確立して行ってほしい。団体としての中長期的な目標設定を行うと良いのではないか。
- ・アンケートの回答で出された課題やフォーラムの内容に多くのヒントがあると思います。ひとつひとつ着実に解決してステップアップしていくような考え方で取り組んでいくのが良いと思います。
- ・今後も他の自治体の取りくみ事例等を研究し、より良い方法、より効率的かつ効果的な方法を考えて実施していただきたい。
- ・2回の講師は、コミュニティビジネスの世界では名の知れた方であるが、「団体間の連携強化と活動拠点の機能強化」のテーマに最適な人だったのか評価に迷います。

事業名	協働事業の情報発信 (事業開始年度：平成23年度～)		
団体名	ひらつか自治体財政研究会	担当課	協働推進課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・協働事業の発展展開の重要な位置を占める情報発信を市民から提案があったところが良いと思います。
- ・印刷費の削減など事業の実行にあたり工夫が見られる。
- ・今後は Web（インターネット）にも進出してほしい。
- ・情報紙は、市民や活動団体へ配布されるだけでなく、掲載されている事業を市民などに説明する機会や職員研修などにも活用するなど、有効に使われていると思います。
- ・相談会や座談会を実施することで、協働を実施している、あるいは協働を考えている団体の思いを知ることができたのではないかと思います。特に、行政の単独主催ではなく団体側がイニシアチブをとって実施したこともあって、参加団体からは本音の部分も聞けて良かったのではないかと感じています。
- ・情報紙は構成もよく非常に分かりやすくできています。
- ・この活動は、平塚市の市民活動全体の底上げにつながっていると思う。全体で協力していくことが必要。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・協働事業を PR する意味では新しい試みであり、必要な事業だと思う。時間はかかると思うが継続してほしい。
- ・情報紙については、読む対象が協働事業をまったく知らない市民なのか、ある程度理解している活動団体なのか、絞りきれいでなかったように思われます。今後は、ひらつか市民活動連絡協議会との協働事業の中で取り組むのであれば、この点を改善して行ってほしいと思います。
- ・発行物は基本をつかむことが大事です。思いを形にする難しさを克服して、是非市民にとって分かりやすい情報発信の方法を模索してってください。
- ・なかなか市民に知らされていない協働事業の情報発信というテーマであるが、シートを見ると双方の評価が高くなく、提案自体に無理がなかったか、十分な協議がなされたかが気になった。
- ・協働事業のような活動は実際に活動されている人によるクチコミや実際に事業に少しでも参加してもらうことが認知の向上にとても効果的だと思います。「クチコミ」や「負担の少ない軽い参加」を促すという切り口で情報発信を検討されてはいかがでしょうか。
- ・一般の市民にも分かりやすいテーマの協働事業をピックアップして1年を通じてケーブルテレビ等に取材してもらい、番組にしてもらってもよいかもしれません。映像でプロセスを見せることは効果的だと思います。
- ・市民活動連絡協議会全体の事業展開になっていくことを期待しています。

事業名	小学生向け財政パンフレット作成 (事業開始年度：平成23年度～)		
団体名	ひらつか自治体財政研究会	担当課	財政課・指導室

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・まずは作ってみると言う点では大切な取り組みだと思います。
- ・今後は紙媒体だけでなく Web（インターネット）への移行も考えられる。分かりやすく伝えるツールは増えると思うが、内容はもう少し検討の余地がある。
- ・行政が単独で作成するパンフレットよりも市民の目線を入れた財政パンフレットになったということでは、双方の視点が入ってより良いパンフレットになったと思います。
- ・大項目のレイアウトは良かったと思います。
- ・子どもたちの視点で平塚市の財政をわかりやすく伝えるツールができたことを評価します。
- ・成果物の対象は小学生だが、小学生が理解できる資料にするために視点をどこに絞ってどこの部分を伝えるかを十分検討することが必要。盛りだくさんの内容だと焦点がぼやけてしまうので、テーマ設定がポイントだと思います。
- ・財政パンフレットはイラストなども添付されており、非常に分かりやすく出来ている。小学生にも理解できるレベルに近づいていると思います。
- ・市の財政を分かりやすく冊子にすることは小学生以外に対しても効果的な情報公開の手段になると思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・アンケートの回収率が低い。工夫を要する。提出呼びかけも必要。
- ・パソコンなどの取扱説明書のように知っている人が作っても理解できないことは多いのと同じようになっているのかもしれませんが。何も知らない人を仲間に入れて挑戦してみたらいかがでしょうか。
- ・学校側との協議だけでなく、実際に子どもとの話し合いも含めて内容をバージョンアップし、より分かりやすいものを目指してほしい。(財務省パンフのお手本となるくらい)
- ・用語のさらに解りやすい解説と、具体例をどれだけ示せるか、小学生にイメージしてもらえるかがポイントになってくる。
- ・教員への資料も既存の資料を集めたもので、この資料で教員が噛み砕いた説明をできるのかを検討してもらいたい。
- ・わかりやすいパンフレットとはいえ、学校のカリキュラム等制限もあり、授業中での活用はなかなか難しいこともあると思います。学校教育の場以外での活用方法も今後は検討する必要があるのではないのでしょうか。
- ・アンケート結果等を考量し、来年はさらにレベルアップしたパンフレットができることを期待します。特に「分かりにくかった点」についての対応が需要だと思います。
- ・せっかく作成したパンフレットなので積極的に活用してほしい。小学校以外の一般の機会にもどんどん活用していただきたい。
- ・行政側の評価が低い。もう少し本音の話し合いが必要ではないか。
- ・学校の授業において活用できるパンフレットに仕上げていくために、行政側からもっと提案したらどうか。

事業名	「地域猫」への取り組み (事業開始年度：平成23年度～)		
団体名	平塚のら猫を減らす会	担当課	環境政策課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・生命の尊厳に目を向けた取り組みであり、行政主体の取り組みではなかなか踏み込めない事を持っている課題である。報告を聞いて、「人の問題」であり、大変なことだと改めて感じた。
- ・地域課題解決のケーススタディとして多大な効果をもたらした事業だと思います。地域自治の事例研究にも使えると思います。
- ・一方的な行政の委託事業では達成できないと思うので、協働事業のモデルだと思う。他市でも悩んでいるところも多いようで、1つのモデル事業として紹介していきたい。
- ・のら猫のトラブルを減らしたいという団体と、行政が統一した目的を達成できたのが良かったと思います。特にトラブルがあったときの地域対応が、臨機応変に協働できたのが素晴らしいと思います。協働のメリットが活かされた事業だと思います。
- ・行政と団体それぞれの役割を分担し、協議しながら進められている点は素晴らしいと思います。
- ・「地域猫」という考え方は猫が好きな人、嫌いな人の双方から理解を必要とする考え方であると思います。その理解を得るのに説明と労力が必要とされる中、団体が根気よく取り組んでいるのが伝わりました。
- ・市民からの活動に対する信用度が上がった点だけを考えても協働として取り組んだメリットがあったと思います。
- ・ユニークな活動を継続させていること、団体が自己資金を作っていることを高く評価します。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・他の課題解決にも取り組んで欲しいとは思いますが、当面は「猫」への取り組みで頑張っていたきたい。
- ・個人や企業からの寄付金や会費収入が見込める活動だと思う。継続していくためにも、NPO 法人化するなどして組織の基盤強化を期待している。
- ・協働情報紙で、地域猫の取り組みが好例として紹介されていますが、もっと広く地域に情報発信することで、のら猫問題に悩んでいる地域からの相談が増えるのではないのでしょうか。
- ・団体の熱い思いが十分に伝わりました。今後、団体として NPO 法人の取得、指定 NPO 法人化へと期待しています。
- ・目標の10地区には届かなかったが、焦らずに少しずつでも活動を拡大して行ってほしい。
- ・行政側は活動自体を支援することとは別に、「地域猫」という考え方自体を広報や地域誌などで PR する形で支援することも検討してはいかがでしょうか。
- ・事業の進め方が地域によって異なり、同一の方法は通用しないことの気づきは、今後の活動にとっても大切な点だと思います。

事業名	里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進) (事業開始年度：平成23年度～)		
団体名	土屋里地里山再生グループ	担当課	環境政策課

(1) 良かった点 (さらに伸ばして欲しい点)

- ・ 荒廃地の再生は農地の多面的機能を回復するための重要な仕事です。労力は大変ですが、すごい力であると思います。
- ・ 農地は多大な環境側面を持っており、環境的視点からの里山再生は良い取り組みだと思います。
- ・ 法律上の問題があり、全てが実行できない(農産物の販売等)のはもどかしいが、逆に改善点がクローズアップされるので1つ1つ解決してほしい。
- ・ 本事業は、これからがスタートです。行政と十分に話し合っ、是非コミュニティビジネスまで発展することを期待しています。
- ・ 双方の評価が似ている点は、良い関係が結ばれていると感じる。
- ・ 行政、団体の得意とする部分を活かすことで成果が出ている。また、地域の方から高い評価が得られていることは協働事業の本来の目的に沿って行われていると思う。
- ・ 活動の基盤となる進入路がうまくできたことで、その後のイベント事業にも好影響があったことが理解できました。
- ・ イベントの企画内容がとても楽しそうで、聞いているだけで子供のみならず大人もワクワクさせるようなものが多かったです。よく考えられた創造的な良い企画だと思います。
- ・ 発表者の顔色や表情が非常に明るかったです。事業が充実していたことが想像できます。
- ・ 事前に十分協議を行ったことがなによりも良い。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・ 当たり前だが農地は農地であり、環境面での再生と絡めて、農地としてどう活用するかも考えて欲しい。(ブルーベリーの植栽で収入を得るのも農業であると思うが・・・)
- ・ 指定 NPO 法人に適する活動だと思うので、組織の基盤強化に努めてほしい。
- ・ 里山の保全、再生をすることでメリットは大きなものがあります。同じ目的をもつ団体も多いと思いますので、それらの団体とも十分に連携をとって、良好な景観形成、里山体験など幅広い活動を期待しています。
- ・ 里山の保全は重要なテーマであるが、地権者の問題、農地法など法律もからみ、解決の難しい面もある。何が出来て何が出来ないかを見極めること、他の事例等も調査してよい方向性を見つけることも必要。コミュニティビジネスとして独立した NPO 法人としての活動を望む。
- ・ 行政が絡むとどうしても制度的な規制や法令などに縛られ、それが逆に足かせになる部分もありますが、「市や市民にとって何が一番好ましいのか」という視点から考えて、事業を実現するためのアイデアを出して問題を克服し、実践して行ってほしいです。
- ・ 事業内容によっては農水産課等の部門との連携も必要となるとと思いますが、うまく協力をとりつけて活動を盛り上げて行ってほしいです。
- ・ 「農業者と認められる」ためにどうしたらよいか、両者でよく話し合うことが、今後の事業展開のカギになると思います。

事業名	一般家庭での生ごみ処理推進事業 (事業開始年度：平成23年度～)		
団体名	ごみを活かす会	担当課	資源循環課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・地道な活動で団体としてのモチベーションを維持するのは大変ではなかったかと思えます。
- ・講座や見学会など内容の充実に感動した。とても重要なテーマなので、とにかく活動を広げて市民を巻き込んでほしい。
- ・ごみ焼却にかかる環境負荷や、ごみ処理費用の軽減は、行政にとっても大きな課題であり、一般家庭での生ごみ処理推進事業の意義は大きい。
- ・生ごみ処理相談員の養成は、目標数値より大分低いですが、その反面、受講者の満足度は高かったようなので、課題や問題点を提案団体と行政で十分に話し合い、平成24年度につなげてもらいたいと思います。
- ・市民に普及させていくためにはとても長い時間がかかることだと思うが、協働提案することで、事業がやりやすくなったのではないかと思う。
- ・きめ細かい活動は行政ではできない事業であるので、今後も継続して取り組んで行ってほしい。
- ・協働事業として取り組むのに適した良いテーマ設定がなされたと思えます。
- ・団体と行政のコミュニケーションは密だったように伝わりました。
- ・目標の人数には達しなかったが、生ごみ処理相談員が誕生したことは今回の事業で十分に評価できる。
- ・地道にやり続けていく姿勢がとても良い。それが受益者（参加者）の高い満足度につながっていると思う。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・短期間で目的達成は難しいと思えます。今後の数年を期間とした事業展開を計画して取り組んで行く程大きいテーマであることから複数年での提案も可能としたらどうか。
- ・相談員育成は目標達成できなかったようだが、PR効果があったのは良かったと思う。
- ・良い内容の講座なので広くPRし、参加者を増やす努力をしてほしい。興味のない市民の目を向けさせる工夫をしてほしい。
- ・生ごみ処理相談員は、一定のエリアで活躍することが期待されますので、自治会などへ活動の趣旨を説明し、事業を進めたらどうでしょうか。
- ・継続することのむずかしさを是非克服して長く続けていってほしいと思う。
- ・行政には情報発信をしていただけるようお願いします。
- ・今年の活動を基礎として来年はさらなる飛躍を期待します。
- ・人をも襲う獐猛なカラスがいます。生ごみが減ってカラスも減ることを望みます。
- ・この活動は、「相談員」を量産することではないと思えます。

事業名	地域防災活動者研修の実施及び防災ニュースの発行 (事業開始年度：平成23年度～)		
団体名	ひらつか防災まちづくりの会	担当課	防災危機管理課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・中級の研修を導入したのはとてもいいと思う、上級講座なども含め参加者が長く関わられるよう工夫をしてもらいたい。
- ・多様な知識を自主防災活動の方に与え、活性化できたことは良かったと思う。さらに多くの方に広めてもらいたい。
- ・東日本大震災の発生により、市民の防災意識が高まっている中で、市民活動団体の視点から地域防災力を高めるための研修内容を提案いただき、それが実施されたことは大変素晴らしいことであり、高く評価します。
- ・地域防災リーダーの育成は、喫緊の課題である。今回の中級編の研修をベースに、より実践的な研修内容となることを期待します。
- ・参加者が多いことを考えると防災についての市民の関心の高さが伺える。それに応えるこのような事業は必要だと思います。
- ・研修に多数の応募があり、成功と考えて良いと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・事業量の見積もりが甘かったようだが、予算にも反映してくることなので事業計画はしっかり立てる習慣をつくってもらいたい。
- ・防災ニュースは団体と行政との考え方の違いがあったのではないかと、発行するにあたっては事前に編集会議を十分に重ねる必要がある。
- ・指導者養成については、参加者が51名いるのでフォローも必要だろう。
- ・防災ニュース発行に苦勞されたようだが、広報物に関する基本をもう一度見直して発刊して欲しいと思う。
- ・今年反省を踏まえて、24年度は防災ニュースに関しては、事業内容、人員の補充、協議をしっかりとやってほしい。
- ・両方で評価の異なる点、特に行政の評価が低い点をよく話し合うことを期待します。行政側に不満が残っていると思います。